

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社 鳴海クリーンシステム
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市緑区鳴海町字天白90番地
工場等の名称	名古屋市鳴海工場
工場等の所在地	名古屋市緑区鳴海町字天白90番地
業種	サービス業（他に分類されないもの）
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	一般廃棄物処理
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年5月22日 ～ 令和5年8月20日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） 管理棟1階窓口にて書面閲覧
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-899-0388		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

- ① 当社は名古屋市の環境行政を担う一翼として、持続可能な社会の形成に向けた「環境首都なごや」の実現に貢献します。
- ② 環境負荷の低減や環境保全・再生のための活動を進めるために環境目的・目標を定め、適正にその見直しを行うことによって、継続的な環境改善に取り組みます。
 - ア 省資源・省エネルギーに努めます。
 - イ 一般廃棄物の適正処理・再資源化及びグリーン購入を推進します。
- ③ 社員一人ひとりが関連する環境法令等を遵守し、環境汚染の予防につとめます。
- ④ 環境方針は、全社員への周知徹底を図り、一般に公表します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

社長推進の下、全社員が取り組む

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		19,851	t-CO ₂
（①を除外した温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）	54,158	t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	74,009	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	70,858	t-CO ₂	70,645	t-CO ₂	74,009	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			0.3	%	▲ 4.4	%		%
温室効果ガスみなし総排出量					70,960	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					▲ 0.1	%	%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量								
削減率（対 基準年度）			%		%	%	%	%
原単位あたりのみなし排出量								
削減率（対 基準年度）					%	%	%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

CO ₂ 排出量は基準年に比べ4.4%増加したが、これはCO ₂ 総排出量の3/4を占める非エネルギー起源によるもので、内訳は非エネルギー起源が基準年に比べ12.4%増加（48,193t-CO ₂ ⇒54,158t-CO ₂ ）したことによる。この増加の要因はごみ質変化によるものであり回避困難なものである。 なお、エネルギー起源に係るCO ₂ 排出量は、ガスエンジンの運用条件を見直したことにより12.4%の削減を達成した。（22,665t-CO ₂ ⇒19,851t-CO ₂ ）
--

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	冷房温度28℃、暖房温度20℃を徹底する。		確実なブラインドや戸の開閉管理により冷暖房効果を維持し、設定温度を逸脱しないよう管理した。
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	使用していない部屋や昼休み・時間外の消灯を徹底する。		不要な照明は確実に消灯を行った。
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	パソコン、コピー機の離席時、退社時のスイッチオフを徹底する。		退社時のスイッチオフを確実に実施した。
廃棄物の排出削減	両面コピー、裏紙利用によりコピー用紙を削減する。		両面コピー、裏紙活用によりコピー用紙を削減するとともに、白黒印刷を徹底してトナーの削減を図った。

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
平成21年度	バイオマス発電設備	40,127.7MWh（9000kW）
平成21年度	太陽光発電設備	10.5MWh（10kW）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力	非バイオマス発電	3,048.8 t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

3,048.8	t-CO ₂
---------	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・ISO14001のシステムを適切かつ有効に活用し運用を維持した。 ・転入者の導入教育として環境教育を実施した。 ・グリーン購入法対象品の購入を実施した。 ・社用車のエコドライブを実践した。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

定時退社を実施し、ほぼ100%達成した。
